魅力ある学びの場の創出に向けた教育環境の強化

背景・課題

○2040年には、徳島県内の高校生は現在より約４割減少すると推計されており、
地理的アクセスに左右されない教育機会の確保や、一人一人の多様な学習ニーズ
に対応した教育の充実が必要
○ＡＩをはじめとするデジタル技術の革新や産業構造の劇的な変化等により、
将来の社会を見通すことが困難な「予測不能な時代」を迎える中、
生徒自身の「主体的な学び」を育む教育が求められている
○徳島県では、令和１１年度入試からの学区撤廃を見据え、令和７年度から、
高校のさらなる特色化・魅力化、教育の質を維持・向上させる学校規模や配置等、
本県の「公立高校の今後の在り方」について検討中
○徳島県は、私立高校が全国最少（５校）であり、都市部との教育環境格差を
是正するため、公立高校の教育内容の充実が不可欠
○農業×工学の融合により先端技術の現場実装を担う「実践的技術者」の育成が必要

徳島県の取組

○「N-E.X.T.ハイスクール構想」の推進

○さらなる特色化・魅力化
・専門高校の機能強化・高度化
・普通科改革（文理横断・STEAM）
・新たな教育プログラムの開設
・施設設備の高度化　など

○高校再編・拠点校選定
・戦略的再編（新設・統合）
・地域の拠点校（中核校）を選定
（居住地による教育格差是正）
・再編等基準の設定・再編整備の推進

○入試制度改革
・主体的な進路選択の実現
（選抜方法の抜本的見直し　等）
※文部科学省「R8高等学校における教育の質確保への対応のための調査研究事業」採択
・ＷＥＢ出願の導入

○改革を支える推進体制
・大学・産業界・地域との連携協働
・小学校・中学校との接続強化
・専門人材（コーディネーター等）の配置
・教員の働き方改革
・知事部局との連携強化

○農業系高等専門学校の設立の検討

要望事項

１　県による公立高校の在り方検討を踏まえた改革を加速化し、「生徒に選ばれる学校づくり」を後押しするため、令和９年度から新たに創設される**「高等学校教育改革交付金（仮称）」は、ハード・ソフト両面を一体的に充実させ、高校教育改革を強力に推進できる制度とすること**。
　さらに、ハード面については、学校の施設・設備に加え、生徒寮等の**住環境整備も対象とすること**。また、ソフト面については、教職員の加配や外部人材の配置など、**人員や指導体制の確立に係る経費も対象に含めること**。

２　新たな交付金制度の創設にあたっては、各自治体が**地域の実情に応じて使いやすい、柔軟かつ持続的な制度設計を行うこと**。

３　地域の実情を踏まえた**農業系高等専門学校の設置基準を検討すること**。

徳島県担当課（教育創生課、経営推進課）